

「武力に頼らず平和はつくれる」などと元気よくコールする人たち＝25日、浜松市中区



浜松 音楽でアピール 戦争法廃止

歌や楽器にぎやかに

ラブ&ピースパレード

静岡県浜松市中区で、日の自由を守る若手弁護士(の会所属)が「1人からでも声をあげる」が民主主義。参院選

25日、戦争法廃止など訴える第4回ラブ&ピースミュージックパレードが開催され、300人が参加しました。大学生、弁護士、フリースクール関係者などの市民有志による実行委員会が主催。

静岡文化芸術大学(生)は「積極的平和主義」という武力行使をする国でいいのでは

うか。平和という言葉について今こそ真剣に向き合って、世界の子どもたちに憧れられる国にしましょう」と発言。内山宙弁護士(明

日の自由を守る若手弁護士(の会所属)が「1人からでも声をあげる」が民主主義。参院選までには戦争法反対の声を一人一人の力で大きく広げましょう」と訴えました。

ママの会メンバーや戦争体験者も訴え、他国との争いをやめるようお願いする歌のライブラや「戦争を知らない子どもたち」を全員で合唱しました。

集会后にはパーカッション隊のにぎやかな音色を先頭に、「武力に頼らず平和は守れる隣国と仲良くっていきまいた。」と話し合っていました。

争法廃止のための新しい政府を求める横断幕

やフラカドを持ち繁華街をアピールしました。じっと見つめる老人や店内から注目する

店員、携帯電話で撮影する人の姿もありました。

フラカドを高く掲げアピールしていた鈴木勝好さん(64)は「おじさんがフィリピンで飢えにより病死した。私が小学生のころから戦争だけはだめだと家族から教わって育った。二度と戦争してはいけない」と語りました。浜北区の女性(42)は「私たちの努力なしには平和を守ることができない。後悔しないようにやれることはやっていきたい」と話していました。